

シラカバの活用

久慈のシラカバは凄いいだね！シラカバは何かに使われているの？



シラカバは一般的に木材として使用されることは少ないけれど、材質が固く、木目が美しいことから家具や内装、小物の材料として使われるんだ。久慈ではフォークやバターナイフなどの食器に活用されているんだよ。

また、シラカバの皮を使った皮細工・小物は、北欧や北海道、長野県で多く作られていて、久慈でも作っているところもあるんだよ。

久慈では近年、シラカバの樹液を活用して、清涼飲料水やせっけん、保湿ジェルクリームなどの商品を開発しているんだよ。



シラカバの樹液って飲むことできるの？どうやって樹液を採取するのかな？



シラカバの樹液が採れるのは3月から4月。まだ雪が残る数週間間に、春先に葉を開くために必要な養分を、地中からぐんぐん吸い上げ、幹から枝先に送っているんだよ。樹液を採るときは、シラカバの幹に小さな穴をあけ、その水の一部を分けてもらうんだ。

シラカバの樹液は、透明でさらさらしていて水のようにだけれど、飲んでみるとほのかに甘く、さまざまなミネラルが含まれているんだよ。北欧やロシア、中国などでは古来よりシラカバの樹液を漢方薬や健康飲料とする風習があるんだ。

次のページでは、シラカバを活用した久慈市のさまざまな取り組みを教えるよ。



樹液採取の様子



シラカバ樹液を商品化

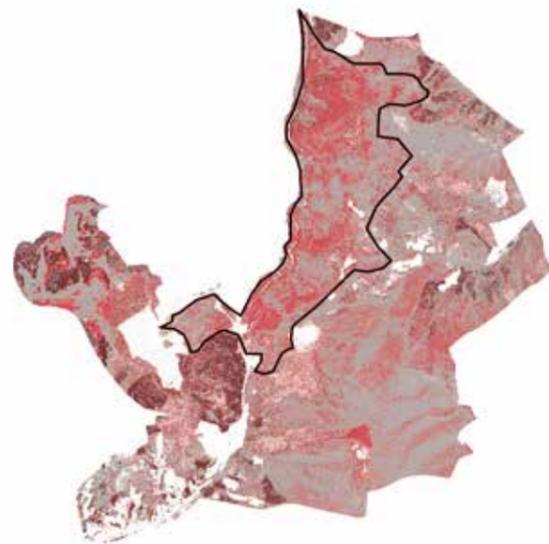
平庭高原のシラカバ林はとても素晴らしいだね。でもどうして日本一と呼ばれているの？



日本では平庭高原のほかにも、長野県や北海道の高原に有名なシラカバ林があるけれど、いずれも専門家による正確な調査をしたという報告がなかったんだ。

平成26年に市や関係団体で設立された「平庭高原『森の恵み・白樺の一滴』活用推進協議会』によって専門業者による平庭高原のシラカバの調査を行ったんだ。さまざまな調査の結果から推計されたシラカバの本数は31万846本。調査により推計されたものとしては日本一の本数となるんだよ。

また、平庭高原のシラカバの群落の面積は約370㌔。まとまった群落の面積としては、現時点では日本一であると考えられるんだ。ほかにも、平庭高原のシラカバ林は国道281号線に沿って約4.5㌔にわたり続いているけれど、それは道沿いに続くシラカバ林の距離としては日本一だと考えられているんだよ。



シラカバがまとまっている範囲
(久慈平庭県立自然公園区域内)



そもそもシラカバとは？

シラカバって木の名前というのは知っているけど、どんな木なの？



実はシラカバは正式な名前ではないんだ。正式には「シラカンバ」という名前で、国内では本州中部から北海道までの山林に分布していて、長野県や北海道で多く見られるんだよ。高い山に生える近い種類の「ダケカンバ」という木と合わせた総称としてシラカバと言われることが多いんだ。



シラカバは本当の名前じゃないんだ！どんな特徴がある木なの？もう少し詳しく知りたいな。



シラカバは明るい場所を好み、高さは10～30m、幹の円周は30cmから1m程でまっすぐに伸びる木なんだ。

木の皮が名前のとおり白いのが特徴で、剥がれやすいんだ。

葉っぱはいろいろな形で、卵形や菱形、三角形に近いものなどがあって、周囲がギザギザしているんだよ。葉っぱの長さは4～10cm程度、幅は3～6cm程度で、秋には黄色に色づくんだ。

成長が早く、木の寿命は70～80年程度で木の中では短い部類なんだよ。



久慈のシラカバ

シラカバがどういう木なのかは、なんとなく分かったけど、久慈ではどこに生えているの？



シラカバは久慈全域の山林で見ることができると。高い山に登るとシラカバ林があることも多いんだよ。

とくに有名なのは山形町にある平庭高原のシラカバ林で「日本一の白樺美林」と言われているんだ。

平庭高原のシラカバ林は県立自然公園にも認定されているんだよ。



シラカバってなに？

シラカバといえば久慈市の「市の木」で平庭高原のシラカバが有名ですが、久慈のシラカバ林が日本一であること、どんな木なのか詳しく知ってる人は、あまりいないのでは？今回はそんなシラカバのことを紹介します。

ジモト学のススメ



さらに知りたい人は！

平庭山荘



■山形町来内 20-13-1
☎ 72-2700

ロビーでシラカバ関連商品が売られています。山形町の特産品を使った料理や大浴場も大人気。コテージもありますので、詳しくは問合せ下さい。

久慈市立図書館



■新中の橋 5-28-4
☎ 53-4605

さまざまな本が貸し出しされています。
開館時間… 9時～19時
※土、日、祝日 9時～17時
休館日… 月曜日
※祝日の場合は翌日

参考文献

▶長谷川哲雄「木の図鑑」▶鈴木庸夫「樹木図鑑」▶平野隆久「よくわかる樹木大図鑑―葉・花・実・樹皮」▶林将之「樹皮ハンドブック」